

地方行政委員會議錄第四十九號

昭和二十九年四月二十一日(水曜日)

○中井委員長　これより会議を開きま  
す。

出席委員長	中井	一夫君
理事加藤	精三君	理事佐藤
理事吉田	重延君	理事鈴木
理事西村	力弥君	理事門司
鶴谷	憲一君	幹雄君
床次	徳二君	亮君
北山	愛郎君	
大石ヨ	シエ君	
中井徳次郎君	山本	友一君
出席國務大臣	石村	英雄君
國務大臣	伊瀬幸太郎君	
小坂善太郎君	大矢	省三君

施行に伴う関係法規の整理に関する法律案の両案を一括議題として、質疑を続行いたします。中井徳次郎君。  
○中井(徳)委員 総体質問で先般来大  
養國務大臣に私お尋ねをいたしました。  
た。あと二、三問題を保留いたしてお  
いたわけであります。本日はその問  
題と、昨日新しく警務担当になられま  
した小坂さんの回答、そういうものに  
関連をいたしまして、公安委員会の問  
題についてお尋ねをいたしたい、かよ  
うに思うのであります。

眼になつていまして、専門的知識を持たれる方につきましては、他にも人が多いのですが、専門の知識を持たれる人はむしろこの際御遠慮をいただいた方がよろしくはないか、こういう気持でおるわけあります。

るのあります。そこでそういう面から考えてみますと、現行法にはこの制限以外にたくさんの制限がある。それを見ますと私は少し疑問とするところがありますのでお尋ねをしますのであります。現行法によりますと、たとえば第五条の②に「委員は、警察職員又は官公庁における職業的公務員（昭和二十年九月二日以後において公選され又は公選若しくは国会、その両院若しくはその一院又は地方議会の選挙若しくは議決によって選任された者を除く。）

**國務大臣** 　今回七条におきましては、前段にお答え申し上げました通りでございますが、現在のところした制限を書きましたことはございませんしては、現在のところいたしました者といふような問題についてしまったということになります。これは制限を設けた精神からして非常にちぐはぐな問題ではあります。かように考へるのであります。この辺についての大臣の意見を伺

<p>国家地方警察本部長官 齋藤昇君</p> <p>國家地方警察本部次長 谷口寛君</p> <p>國家地方警察本部警視長(総務部長) 柴田達夫君</p> <p>國家地方警察本部警視長(刑事部長) 中川董治君</p> <p>委員外の出席者 専門員 有松茂男君</p> <p>専門員 長橋昇君</p>	<p>さきに犬養さんにお尋ねをいたしましたときに、私は公安委員会の委員になりましたが、資格について、今回この資格を緩和されたことについてはけつこうなことであるといふふうに申し上げておいた記憶があります。現在でもその気持でおるのであります。そやはりそれにも制限がございます。それは今度出されました法案の第七条に、「委員は、警察又は検察の職務を行ふ職業的公務員の前歴のない者のうちから、」ということになつておるのではありませんが、こういう制限を設けられました趣旨について大臣の御見解を伺いたい、かよろしく思います。</p>
<p>本日の会議に付した事件</p>	
<p>警察法案(内閣提出第三一号)</p>	
<p>警察法の施行に伴う関係法令の整理に関する法律案(内閣提出第三一号)</p>	
<p>本日の会議に付した事件</p>	

持つてゐる人が多數任命されてゐるようであります。特に公安委員につきましては、そういう制限をつけておくといふことについては、大体の趣旨においては、今の大臣の回答でけつこうであるうとう思ひます。ただ、そういう性格からいって、なぜ公安委員になつてはいけないか——チェックしているといふ形であります。これは、やはり権力の座に長くすわつておると、それになれつことになつてしまふ。個々の警察官につきましては、非常にりつばな方もありますし、反省をされておる方もありますし、きのう他の委員からもお話をありましたように、他の職業についておられるりつばな人もあるし、また過去の内務官僚の中には教育行政をやつておられる、あるいは経済行政をやつておられるという意味で必ずしも不適任でない人があるにもかかわらず、

の前歴のない者の中から、両議院の同意を経て、内閣総理大臣が、これを任命する。」というふうになつておる。またその④の三には「日本国憲法施行の日〔昭和二一年五月三日〕以後において、日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、又はこれに加入した者」というふうにもなつております。こういう点から考えますと、このうちで「警察職員又は官公庁における聴衆的公務員」というのは、あまり広過ぎる、また現行制度ができました当座は、追放解除の問題がございませんでした。そういう公安委員の選任に苦慮したという意味において私は今回の制度はけつこうだと思うのであります。ただこの精神から行きまして、「警察又は検察の職務を行ふ職業的公務員の前歴」というだけでは、

いかなどという規定がござりますのは、  
警察制度、警察行政そのものの持つ特  
殊性からいたしまして、特に官僚化を  
防ぎたい、こういう趣旨であったことと  
は御承知の通りであります。しかし官  
吏であつた者と申しましても、非常に  
これは範囲が広いのでございまして、  
特に専門的な学識を持つた方もおる。  
あるいは外國に使いして、海外の問題  
等についての非常に専門的な知識を持  
つた方もあるし、そういう意見が、將  
來行政に反映することが望ましいとい  
う面もあるのですございますので、この  
規定はあまりに広汎に過ぎるのではないか  
とかいうことで、ここに七条にござ  
いますように、しづつて制限を置いた  
次第でございます。もとより第五条の  
三にござりますような禁止規定という  
ものは、これは当然のこととございま  
して、前警察法ができましたときの状

本日の会議に付した事件  
警察法案(内閣提出第三二号)  
警察法の施行に伴う関係法令の整備  
に関する法律案(内閣提出第三三二号)

条に「警察又は検察の職務を行ふ職業的公務員の前歴のない者のうちから、」ということで制限を設けておりますが、この趣旨は、私どもの考え方をもつて

過去の内務官僚の中には教育行政をやつておられる、あるいは経済行政をやつておられるという意味で必ずしも不適任でない人があるにもかかわらず、

私は今回の制度はけつこうだと思うの  
であります。ただこの精神から行きま  
すと、「警察又は検察の職務を行ふ職  
業的公務員の前歴」というだけでは、

次第でござります。もとより第五条の三にござりますような禁止規定といふものは、これは当然のこととございまして、前警察法ができましたときの状

1

態と今日におましましては、相当年月も経過しておりますし、國民一般の良識がかかるものについての批判が十分に譲成されておるという情勢下にあると考えますので、特にこの規定を置くまでもない、こう考えた次第であります。

○中井(復)委員　このお話をあらうて、が、私、暴力団的なもの、暴力行為をもつて政治に干渉しようといらものについては、あくまでこれはやはり存続させるべきものであるというふうに考えてます。

それがからこれに随道をいたしました。それで、先ほど官公使の話がありましたが、旧職業軍人であります。これにつきましても私は現行法は制限をしておつたつもりであります。今回これを排除せんとしたいたしました意味を伺いたいと思います。

○小坂國務大臣 第七条に、ただいまのお話のように、国会の同意を得て任命するという項目がございますので、今御指摘のようなものは特に設けませんでも、広く国民から選ばれる国会議員の良識といふものが、この同意をとれるという点において、十分な防止措置、チエックする役割を持つてゐる、私はかように考えております。

○中井(徳)委員 大臣は非常に上手な答弁をなさいますが、この問題は、よつと良識で同意しないだらうとする、良識でそういう者を選任しないで、良識で法律是非常に簡単なものでいいのであって、たとえばきのうも問題となになりましたような新法案の十一条のときは問題にならぬ、そういうもの書かぬでもいいじゃないかといふ

なことも言えると思うのであります。警察の職にあつた者あるいは検察の職にあつた者さえ遠慮をしておるという意味において、これはあくまで前の職業軍人——これは応召の軍人を言うのではありません。職業軍人、特にそのうち私は憲兵をさすのだが、どうですか。戦争前の憲兵の日本国民に対する権力行為、こういう行為が現在やつておられる警察官の行為よりも非常に生ぬるものであつたと思うのであります。この点についてひとつ伺いたい。

○齊藤(昇)政府委員 ただいま大臣がお答えになりましたように、この欠格の条項といふものは現行法におきましては警察の官僚化を防止するという趣旨で掲げておるのでございますが、しかし御意見にもありますように、公安委員にできるだけ適格の人を得たい。適當なりつばな人を得たい。できるだけ選任の範囲を広めたい、といふ声が市町村、府県を通じましてありますことは御承知の通りであります。そこでわれわれといいたしましてはむしろ今後留意して行かなければならぬのは、警察が官僚化しないようなどといふことが、一番の大事な点だと考へておるのでもあります。一般の官公吏、これは御指摘のように、官吏あるいは地方の公吏けしから非常に範囲が広いわけでありますから、これはあまりに広きに失しておる。警察を官僚化するということは非常に困るわけです。警察職員あるいは警察とほとんど親類の状態である検察、これの官僚化といふものを防止をすること、いうことが民主警察の確保上非常に大事でありますから、警察を管理

いたるものといたしましては、そういうおそれのない良識を持つた人たちに限つたらしいのじやないかということです。警察官僚化というわけでもございません。選任の際に非常に適当だということです。一般軍人につきましては、これは別に軍人の方が入られたからといって警察官僚化というわけでもございません。選任の際に非常に適当だということです。国会なり都道府県会の同意を得られるといううつばな人であるならば、今申しました趣旨からはさしつかえないのにじやないかということです。こからだけたわけであります。

憲兵はこれはやはりこの警察の職務を行ふ者の中に入りますて、これは資格から除外されます。それから現在の第五条のいわゆる暴力団体を結成したり、それに加入した者を除いたのはどういうわけかというお尋ねであります。が、これは普通良識上考えましても、こういう人たちを国会や都道府県会の同意を得て任命されるということは、これは考えられないことであります。

また警察職員、これは公安委員も同様であります。その服務の宣誓等においては、他の団体の規律に優先して従わなければならぬいようなそいういう団体に加入することは、これは禁ぜられておりますので、もしそういうことになれば、職務違反ということで、國家公安委員であるならば総理大臣が罷免する、府県であれば知事が罷免するということに相なるわけでありますから、ここに書いておく必要はないであろう、かようなことから削つたのであります。

○加藤(綱)委員 私は中井委員からの質問のございました点は、今度の警察法の警察民主化を推進する部分の問題で、

として非常に繊細な、基礎的な問題だと思います。今度の改正によりまして、公安委員の非適格者の規定は、ちょうど軍隊におけるシザイル・コントロールのような形になつておると思うのですが、今度は警察の特殊な性から、より公平な考え方を是正する、官僚化の色彩をなくすという考え方でおつたのが、今度は警官の特殊な性から、より公平な考え方をさせるという意味だらうと思うのでございまして、そういう意味からいいますと、この制度をシザイル・コントロールにも匹敵して考えたらどうかというふうに考えていいのであります。これに対しても有力なるいろいろな修正案がありまして、警官であつても警察を離れてしばらくした者は入つてもいいのじやないか、半年くらいたつたらいいのじやないか、公職選挙法の高級官吏の立候補くらいの期間でいいのじやないかという議論もいろいろあると思うのであります。これは私たちといたしましては非常に反対なのであります。シザイル・コントロールの場合、ことにアメリカ等の軍部に対するシザイル・コントロールの場合におきまして、元陸海軍の軍人であつた者が陸軍長官等になれるものかどうか、そういうことについてもし御当局で御研究になつたことがござります。

監察制度に対する構想が御当局におきましては、今度の監察制度に対しましてのいろいろの危惧の念というものが払拭されると思いますが、今度の監察制度におきましては、たゞいま私の方で資料を持つておりますんで、調査をしてわかりましたらお答えいたしたいと思います。

○齊藤(男)政府委員 アメリカのシヴィル・コントロール、ことに軍隊のシザイル・コントロールの点につきましては、たゞいま私の方で資料を持つおりませんので、調査をしてわかりましたらお答えいたしたいと思います。

この前の警察法案の公安監理会のことについて御意見がございましたので、その点を申し上げます。昨年の公安監理会の構想では、公安委員会というものを監察の管理責任者とはしないで、直接國務大臣が監察の長官になる。それに対して民主的に監視し助言をする機関として公安監理令を置いたのです。このたびの法案では、公安委員会そのものを現在のまま警察の管理責任者などにしてありますので、従つて昨年のよくなさらんに民主的な監視助言の機関は必要がないであろう、かように考えておるのでございません。と申しますのは、民主的に選ばれた公安委員会、そして監察の専門家というよりは、むしろ民間の良識を持つておられる人で構成をされる公安委員会が監察の管理の責任者なのであります。これらの方々が監察長官なましても、これらの行政をみずから監督し、指揮をせられるわけでございますから、

もう一つ別にそちいつた意味のものを設ける必要はなかろう、かように考へております。

○大矢委員 議事進行……。今ちょっと話を聞きますと、労働行政担任の労働大臣が取締り方面の警察法審議の主管大臣になつたとあります

が、これは重大な影響があるということで、法務委員会で特に労働大臣の出席を求めるそうです。そのことがあつたかどうか私はよく知りませんが、そのための法務委員会の審議を終つてから、さらにつきこの委員会を継続してもらいたい。

○中井委員長 大矢君にお答えをいたします。大矢君仰せのごとき要求は、

法務委員会より受けではおりません。

なお労働大臣が法務大臣にかわつて警察の担当大臣となられたことにつきましては……。

〔離席する者あり〕

○中井委員長 加藤君、自席に帰られんことを希望いたします。

〔大矢委員「今言つた一時休憩する」とはできませんか」と呼ぶ〕

○中井委員長 ただいま委員長は発言

中でありますから、委員長の話を聞かれた上で御発言あらんことを希望いたしました。

〔「保留々々」と呼ぶ者あり〕

○中井委員長 大石さん、質疑をお進めになりませんか。

○大石委員 保留やく、質疑は打切

りません。

○中井委員長 暫時休憩をいたしま

す。

午前十一時四十二分休憩

〔休憩後は開会に至らなかつた〕

○中井委員長 労働大臣が警察法案に関する担任

大臣に、内閣より指名されたことに

通りであります。なお法務大臣にか

わり労働大臣が警察法案に関する担任

大臣に、内閣より指名されたことに

つまましては、昨日緒方國務大臣そ

の通りであります。なお法務大臣にか

わり労働大臣が警察法案に関する担任

大臣に、内閣より指名されたことに

で、はなはだあなたの方の意に沿わぬかもしれません。本日はこの程度で質問を保留いたしまして、午後あるいは明日でも譲りたい、かように思いました。

○中井委員長 中井君の御質疑の保留につきましては、あるいはこれを質疑をなさることに、質疑権の放棄と承認いたしてよろしゅうござりますか。

○中井(徳)委員 きようはわれ／＼が退場しますと定足数にも満ちません。これは保留いたします。

○中井委員長 中井君の御質疑の保留につきましては、あるいはこれを質疑をなさることに、質疑権の放棄と承認いたしてよろしゅうござりますか。

○中井(徳)委員 きようはわれ／＼が退場しますと定足数にも満ちません。これは保留いたします。

○中井委員長 中井君の御質疑の保留につきましては、あるいはこれを質疑をなさることに、質疑権の放棄と承認いたしてよろしゅうござりますか。

昭和二十九年四月二十四日印刷

昭和二十九年四月二十六日發行

衆議院事務局

印刷者 大藏省印刷局